

## 2020年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が、学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので公表いたします。

関西学院幼稚園は、子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を実践しています。そこで、2020年度の学校評価におきましても、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”についての質問を、「学院共通項目」として、そして「キリスト教主義教育」を評価項目に選定しました。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」「保健管理」「教育環境整備」「保護者との連携」を設定しました。加えて、今年度は新型コロナウイルス感染症が幼稚園生活に大きく影響しましたので「新型コロナウイルス感染症対策」も設定しました。

評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教員にアンケート調査を行い、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者92.6%（200人/216人中）、教員100.0%（16人/16人中）となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育を目指していきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが、愛されている自分を実感し、友だち・保育者と共に認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうプロセスを大切にするキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育を実践したいと考えております。今後どうぞよろしく願いいたします。

2021年3月19日  
関西学院幼稚園  
園長 赤木 敏之

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

＜建学の精神―「幼子をキリストへ」＞

聖書におけるイエス・キリストによって示された教育観・子ども観をもって、キリスト教主義による教育・保育を実践している。子どもたち一人一人は、神様に愛されている存在として、慈しみ育てることを使命としている。子どもを中心に据えた教育・保育は、一貫した流れの中で受け継がれている。

＜教育方針＞

○子ども一人一人が、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。

○お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。

○神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらの教育方針に基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもたちと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行っている。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く援助を心掛けている。

### 2020年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→ 本園の教育の根幹となるため。
- ・教育課程・指導→ 重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
- ・保健管理→ 園児の健康管理は重要であり、経年変化を図るため。
- ・教育環境整備→ 子どもが遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため。
- ・保護者との連携→ 子どもの健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため。
- ・新型コロナウイルス感染症対策→ 対策をとりつつ行う教育の充実の模索のために新規選定。

### 2020年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	B
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員間でキリスト教保育理念を共有する。</li> <li>○園児の発達・個性を把握し、一人一人が愛されていると感じられる保育を実践する。</li> </ul>		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は、園児一人一人を大事に守り育てていくキリスト教保育を実践し、園児のあるがままを受け止め、愛情をもって関わっている。</li> <li>・教員は、園児が主体的に、喜びをもって遊び、充実感や達成感を味わえるように援助している。</li> <li>・教員は、園児同士が互いの個性や多様性を認め合い、共に育つことができるよう、必要に応じて対話し、園児に働きかけている。</li> <li>・教員は、園児の内面（意欲、葛藤、満足感など）に目を向け、できる・できないといった結果にとらわれず、その過程を大切にしている。</li> <li>・教員は、祈祷会を毎朝行い、祈りから一日を始めている。共に祈る中から、キリスト教主義教育の理解につながる願いを共有している。</li> <li>・土曜日には、聖和キャンパス内のダッドレーチャペルを年長児が使用し、年間</li> </ul>		

	<p>14回の礼拝を行った。教員が聖書のお話を語り、さんびかを歌い、献金を捧げ、共に祈る時間をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休園期間の対応として、礼拝カリキュラムを工夫し、平日の礼拝の中でも、聖書のお話を伝えたり、恵みを与えてくださる神様に感謝したり、家族や友だちなど、他者のことを思い、祈るときを大切にしてきた。</li> <li>・11月には、クリスマス準備保護者会を、人数を制限して開催した。年少組保護者には対面で、年中・年長組保護者には、ビデオ視聴をしていただき、キリスト教保育、クリスマスについての理解を深めてもらう機会を設けた。</li> <li>・1月には、阪神淡路大震災から26年目の礼拝を行い、年長組で行った礼拝を動画配信し、保護者へも防災・減災の意識をもつ機会となった。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートからは概ね、キリスト教主義教育について理解いただいている結果であったが、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と記入された方がいたことは、忘れてはならない。</li> <li>・教員アンケートからは、問1「教員は、キリスト教保育の理念を共有している」について、回答した全ての教員が、強くそう思う、どちらかと言えばそう思うと答えているが、37.5%が「どちらかと言えばそう思う」という、結果であった(前年比8.9%増)。これは、教員個々の保育経験の差異や、対話を通しての理念共有が、十分ではなかったことが考えられる。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、園児が愛情を感じられるような保育を、園児を通して、保護者にも感じ理解していただけるよう、教員全員で行っていく。そのために、教員同士が研修や教師会にとどまらず、日常的に園児のことを語り合い、共通認識を深められるような意識をもつ。</li> <li>・保護者に対しては、家庭通信、お知らせボード、メール・動画配信などを活用し、日頃の対話を充実したものにしながら、キリスト教主義教育の理解に努める。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育課程・指導 【各領域に主体的に取組む姿勢を培う援助】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取組めるように援助する ○園児の主体的な活動を尊重し、園生活を友だち、保育者と共に楽しむ保育を実践する。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画をもとに、各学年ごとに月案、各クラスごとに週案、日案を作成し発達に応じた保育内容を構築している。日案、週案では園児一人ひとりの姿の変移を記録し、保育を展開する上での省察をまとめている。今年度の園児の姿に合わせて保育内容、保育者の援助点等を立案している。</li> <li>・教員は教育的配慮をもって保育活動における物的環境を構成している。人的環境として園児が主体的に取り組めるように一人ひとりに応じた援助を行っている。特に3歳児、4歳児、5歳児と各学年の発達や経験に応じた擦り合わせを教員間で行い、入園から卒園までの歩みの中で保育が積み上がるように努めている。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、保育内容、様々な行事を見直した。例年よりも縮小した内容で保護者の参加を控えていただいた行事もあったが、保育内容、保育形態や行事の在り方について再検討、再確認することができた。</li> <li>・年間を通して、保育後に学年ごとに教員で集まり、その日の保育の省察や翌日の保育に向けた打ち合わせを行っている。その際、経験年数に関わらず教員間</li> </ul>		

	<p>で援助の手立てや子ども理解について意見交流を行い、情報を共有している。必要に応じて他クラスの担任が別のクラスに入り、教員同士で保育を見合う機会も設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質向上のために定期的に教員全員で園内研修を行い、毎回テーマに沿って個人、グループ、全体で保育を振り返り、園児の気持ちの見取りや本園の教育理念の共通理解を深めている。方法論の伝授だけでなく、園として大事にしてきた歴史や経緯を知る機会を設け、それらを踏まえた上で園児のために必要な援助や現在の構成員でできる関わりを話し合っている。</li> <li>また、園内研修に加え、兵庫県私立幼稚園協会、キリスト教保育連盟等の研修に参加している。今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、リモートでの研修に参加した。</li> <li>・政府からの緊急事態宣言発出のため4月、5月は休園となった。休園中はメールやZ o o mを活用し、自宅からリモートでの会議を行い保育再開のための準備を行った。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートからは、問4「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている」、問5「幼稚園は、子どもたちの気持ちを大切にし、主体性を育む保育をしている」ともに、強くそう思うと答えた割合が概ね高評価を得ている。前年度の数値と比べると問4に関しては大きな変化は見られないが、問5においては、強くそう思うと答えた保護者に、約5%の低下が見られる。</li> <li>・教員アンケートからは、問2「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている」に強くそう思うと答えたのが87.5%（前年比23.2%増）となった。これは、園内研修や日々の保育の振り返りを重ねる中で、教育理念の共通理解を深め、園児一人ひとりへ愛情をもって丁寧に関わる共通の意識が持てるようになってきたと評価ができる。園児が主体的に物事に取り組むためにはまず、愛情を感じ、安心感をもって過ごすことである。その重要性を多くの教員が感じている結果となった。</li> </ul>
<p><b>今後の方策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人ひとりとの関わりにおいて、主体性を育むために、環境構成、言葉かけなどの援助方法を教員間で話し合い、省察し、実行する。また、今後も保護者の理解に繋がるように園児の育ちについて話をする場を設ける。</li> <li>・今後、若手教員の増加、多様な雇用形態等、幼稚園の構成員が変化しても、保育の質を維持・向上できるよう、日々の保育の振り返りや園内研修の中で、教育理念の継承（園として大事にしてきた歴史や経緯）、子ども理解（各学年ごとの擦り合わせ）における共通認識を深める。</li> <li>・オンライン、リモートを活用した研修に参加し、保育の専門性を高める。</li> <li>・今年度、新型コロナウイルス感染予防の観点からの保育の見直しを図った（室内の換気、遊具の共有・消毒、手洗い手指消毒の励行、外遊び時間の増加など）が、今後も園児を中心に据えた保育内容の模索、検討を継続する。</li> </ul>

<p><b>評価項目</b> 【テーマ】</p>	<p><b>保健管理</b> 【日常の健康管理、疾病予防の取組】</p>	<p><b>自己評価</b></p>	<p>A</p>
<p><b>目標</b></p>	<p>○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防に努める。 ○保護者の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする。</p>		
<p><b>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</b></p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児生活調査表（毎年度保護者が記入）にて、園児一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握し、特に身体的・精神的特徴を持った園児</li> </ul>		

(痙攣、心臓病、発達障害、アレルギーショック症状、肢体不自由等)については、会議等で定期的に成長や課題について話し合い、必要な対応・援助について共通理解している。

- ・伝染病（インフルエンザ、流行性胃腸炎等）などで、欠席者増加の兆候が見られた際には、園医に相談の上、保護者に状況を伝えている。尚、怪我、流感、伝染病に関しては、全国、地域の状況を捉え、意識して予防に努めるように全教員で共有している。
- ・教員が登園時に園児の視診を行い、保護者からも随時話を聞き、必要に応じて直接園児の健康状態を把握している。
- ・保育中は、園児の体調の変化に目を配り、検温・保護者に連絡等を行っている。降園時、帰宅後も保護者と連絡を取り、園児の健康状態の把握をしている。また保育中には、園児の状態に応じて保健館と連携し、指示を仰いでいる。
- ・園児が心身ともに健やかに過ごせるように、受診している医師の診断、園医に相談した上で、受け入れを行っている。また、特定の伝染病（インフルエンザ、流行性胃腸炎等）に罹った園児に対しては、医療機関で診断を受けた上で、「登園許可証」を提出いただいている。
- ・園医による「ほけんだより」を配布し、その中で、園児の保健衛生にかかわる事柄（新型コロナウイルス感染症等）を取り上げ、医師の立場から最新の医療情報や、医学的な視点からの切り口による見解を伝えつつ、保護者自らが疾病予防や健康的な生活の向上に努めようとする意識を高めるきっかけづくりをしている。
- ・保護者のみならず、園児については保育の中で「手洗い、アルコール消毒」「好き嫌いなく食事をする」「衣服による体温調節、体調管理」など、望ましい生活習慣が身に付くようにしている。
- ・園児の心身の状態を見て、保育後や週末の過ごし方など、保護者に伝えている。

#### (取組の効果に対する評価)

- ・保護者アンケートでは、問7「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」において、98.0%が肯定的な回答をしている。このことから、新型コロナウイルス感染症が広がる中で、保育者が子どもの体調について細心の注意を払っていることが伝わっているものと思われる。また、体調に変化があった際には速やかに保護者に連絡をしていることも上記の認識につながっているのではないかと推測される。
- ・保護者アンケート問8「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。(園医と連携の上)」に関しても、98.0%が肯定的な回答を得た。この結果は、園医による「ほけんだより」の配布や保育者が子どもの疲れや体調について保護者に伝えていることが理由に考えられる。
- ・教員アンケートでは、問5「幼稚園は、園児一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」に関して、80.0%（前年比8.6%増）が強くそう思う、13.3%（前年比8.1%減）がどちらかといえばそう思うとなり、園児の体調管理の意識が高まっている結果となった。また、問6「また、怪我、疾病等の対応については園医に相談の上、行っている。」では、強くそう思うが68.8%（前年比16.9%減）、どちらかといえばそう思うが18.8%（前年比4.5%増）となった。これは、今年度、新型コロナウイルス感染症予防として、体調に不安がある園児は登園していないことや、保育中に、園児が体調を悪くする場面が大きく減少し、園医に相談することも減少したからであると考えられる。

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症にとどまらず、保健衛生に関わる事柄を引き続き、園医と連携をとり、医学の立場からの最新情報を得る。また、保護者には、「ほけんだより」を配布し、引き続き保健管理に努めていく。</li> <li>・各クラスで、疾病予防・対策等、園児が心身ともに健やかに過ごし、基本的な生活習慣を身に付けられるよう、援助していく。</li> <li>・教員間で、園児の心身の健康状態に関して伝え合い、その対応などについても確認し合う。</li> </ul>
-------	--

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実、保育者の教育・研究環境の整備】	自己評価	B
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法人と連携した施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う。</li> <li>○法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。</li> <li>○保育者の教育、研究のための環境の充実を行う。</li> </ul>		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の園庭環境は、SDGsの観点からも、地域の生態系維持の重要な役割を果たしている。今年度は、園庭にある池の環境整備を行った。水質、水量安定のために、天然土粘土とベントナイトを混ぜ、日干しをした後に教員で水底を整える作業を行った。水辺の生き物が持続可能な形で生息し、園児の様々な体験に繋がるように模索している。</li> <li>・年度当初、教員で小屋・倉庫・雲梯・ベンチ・机などの遊具に柿渋(天然防腐剤)を塗った。</li> <li>・植物環境の充実を図るために、季節ごとに種蒔き(ヒマワリ、トウモロコシ、アサガオ、ダイコン、カブなど)や、球根(チューリップ、ヒヤシンス、クロッカスなど)、花(センニチコウなど)などを植えた。各クラスにも季節の花(秋にはキキョウ、クリスマス時にはポインセチア、シクラメンなど)を飾った。また、ハーブの植え替えやハーブをつるしてドライフラワーにし、子どもたちの遊びの充実も図った。</li> <li>・保育で使用したサツマイモの蔓、枯れた草花、カブトムシの糞などを土と混ぜて腐葉土にし、土壌改良を図っている。それらを利用した植物の栽培も試みている。</li> <li>・保育室の生き物(メダカ、ドジョウ、ヌマエビ、ウーパールーパーなど)を購入し、飼育している。</li> <li>・毎朝、登園前に教員が園舎・園庭の安全確認(施設整備、遊具等の点検など)、園児を迎え入れる為の準備(保育室環境、ピロティ、デッキ、園庭の掃除など)を行っている。また、保育後も同様の場所を教員が清掃し、環境を整えている。</li> <li>・毎週、砂場の衛生を保つために、砂の掘り起こしを教員が行っている。また、園庭権所の一部の清掃も行っている。</li> <li>・教員同士、災害時の園舎・園庭のシミュレーションを共有し、避難訓練を通して、対応策を講じ、被害を最小にとどめられるように努めている。</li> <li>・経年劣化し故障した保育室2室、職員室のエアコンを取り換えた。</li> <li>・折り畳み式画用紙はねあげ(乾燥棚)35段を4台購入した。</li> <li>・遊具・設備は随時、総務・施設管理課、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、修繕を行っている(園庭の小屋、トンネル、デッキの床、ロールカーテン、便器の洗浄レバー、保育室、職員室、デッキの電球交換など)。また、適宜、それらの保守点検も行っている(冷蔵庫、AEDなど)。</li> <li>・教員が、必要に応じて園庭の樹木の剪定や草の刈り取りをしている。また随時、</li> </ul>		

	<p>総務・施設管理課に相談し、高木の剪定をしてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の充実を図るために適宜、遊具・教材を加えた(クリスマス降誕物語の劇で使用する羊の人形4体。保育室の玩具として木製の車6台、パズルの購入など)。</li> <li>・園児がプレゼント製作で使用する教材(木材、布類、包装紙、リボン、糸など)を、教員が検討し購入した。</li> <li>・各保育室や図書コーナーの絵本充実を図るため、絵本、図鑑、紙芝居を合計349冊購入した。</li> <li>・4月・5月の休園中に、絵本654冊購入し、各家庭に配布した。その際、家庭で作って遊べる製作物や、手作りゲームなども一緒に郵送した。</li> <li>・教員全員で園内研修やZoomによる私立幼稚園教員子育て支援研修、キャリアアップ研修(新人研修)などの研修に参加できるように、調整した(預かり保育の日程調整、園庭開放の時間短縮など)。また、各自の自己研修の充実を図るために、Web上で研修動画配信を拝聴可能にした。</li> <li>・キリスト教保育連盟から刊行されているキリスト教保育の書籍を、希望する教員に配布している。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートでは、問9「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている。」に関して、強くそう思うと答えたのが、60.0%にとどまっている。これは、園舎・園庭ができて20年が経ち、各所経年劣化による大規模な修繕箇所が出てきており、補修等に時間を要する修繕箇所が存在していることが一因であると考えられる。</li> <li>・教員アンケートでは、問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境(学会・研修会への参加も含む)づくりに努めている。」に関して、強くそう思うと答えたのが、43.8%にとどまった。この結果からは、園外へ出た研修が無くなった状況の中、各教員が望む研修会の内容に参加できなかった現状が窺える。また、定期的に教員全員での園内研修やZoomでの研修会の参加は確保されているが、教員個々が、十分に保育の質を高めていくための学びや、保育観を深めるまでには至っていない状況であると推測される。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設整備の安全、維持管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も法人との連携を円滑に行い、各教員が園児の安全・感染症予防対策を念頭に置き、施設設備の安全、維持管理、点検、拡充していく意識を持っていく。また、園児のより良い遊び場としての環境作りを意識し、持続可能な園庭の自然環境の充実や土壌改良を引き続き取り組んでいく。</li> <li>・幼稚園が行っている一つひとつの環境作りや補修・修繕箇所などの取組が、保護者にも理解・共有してもらえるように、随時現状を発信していく。</li> </ul> </li> <li>○遊具、教材の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教員間・各クラス・各学年で子どもの発達や日々の姿を捉えて教材研究を行い、園児の遊びや環境の充実を図るために必要性を見極めて取り入れていく。</li> </ul> </li> <li>○教員の教育、研究のための環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症流行の影響で、外部の研修参加などが難しい現状であるが、引き続き、園内研修の機会や、Zoom・Webでの研修動画配信などを利用し、保育者の教育・研究環境が充実できるように努める。</li> <li>・各教員が、保育の専門性の向上に努める意識を持ち、自主的に個人研究・自己研鑽ができるように、引き続き、情報共有に努める。</li> </ul> </li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保護者との連携 【信頼関係を深め子どもの育ちについて共に考える】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
-----------------------	---	-------------	----------

<p>目標</p>	<p>○保護者と連携し、園の教育方針、教育内容の理解を深める。 ○園児の心身の健全な発達を願い、保護者と共に連携し、信頼関係を築く。</p>
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本園は、保護者が園児を送迎する際、教員と保護者が話をする環境にある。そのため園児の様子を直接、聞いたり伝えたりすることを日常的に行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために家庭訪問、クラス懇談会を中止した。そのため、例年より保護者と話す機会が減少するため、教員は意識して特に登降園時に、園児の様子を伝えたり、保護者の思いを受け止めることを心掛けた。</li> <li>・登園時に、保護者が園児が興味を持っていることや、園について知ることができるよう正門のボードに様子やエピソードを毎朝記入し、園生活の理解に繋げている。</li> <li>・今年度から新型コロナウイルス感染症の流行により、保護者が毎朝、「園児健康状態チェック表」を提出することになった。その際、保護者が園児の様子を教員に伝えるきっかけになっている。家庭での過ごし方や降園後の様子を話すことにも繋がり、保護者とのコミュニケーションの一端にもなっている。</li> <li>・降園時、教員が保護者全体に向けて一日の活動や園児の姿、出来事、願いなどを伝えている。それによって保護者と園児への思いを共有している。</li> <li>・園児の誕生日を全職員で把握し、お祝いの言葉をかけている。園児も保護者も愛されていることを実感し喜びの時をもてることを大切にしている。</li> <li>・園生活の様子や伝達事項、催しなどをホームページやようちえんネット（ネットワークツール）、YouTubeでの動画配信で発信している。</li> <li>・4月、5月が休園になり、直接保育ができない状態であったため、日々の保育で行う内容（歌、話し合い、礼拝、絵本、外遊び、園の紹介、製作など）をYouTubeで動画配信した。園児と保護者が、登園できない不安を和らげたり保育内容への理解に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、衝立を使用したり消毒を徹底し、感染予防対策に努めた上で個人懇談を行った。保護者と、園児一人ひとりに寄り添った援助や願い、育ちを共に考え合う機会となった。また、保育参観日は、保護者に分散して、参加いただき、園での様子を具体的に知ってもらうことで、保護者の安心に繋がる機会となった。</li> <li>・大人数が集まる、保護者会講演会が行えない状況であったので、キリスト教保育連盟の刊行物「ともに育つ」を年間購読し、保護者に配布し、キリスト教保育の理解を深められるようにした。</li> <li>・園と家庭との連携を目的とし、園児の心身の健全な発達、保護者が心穏やかに過ごせるひとときを願い、保護者会活動の一環としてコンサート（ピアノ、パイオルガン、ジャグバンドコンサート）を開催した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、分散降園や分散での園庭開放、行事などでも順次降園を促したので教員と保護者との関わりが例年より減少しているところもある。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートからは問11「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して強くそう思うが64.8%、あまりそう思わないが5.5%となった。これは新型コロナウイルス感染症により保護者とのコミュニケーションの機会が例年より減少したことが関与していると考えられる。また、預かり保育利用も年々増加傾向にあり、教育時間内の降園後の連絡や子どもの様子や願いの共有が不</li> </ul>



	<p>十分であることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケートからは問 10「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して強くそう思うが 56.3%、どちらかと言えばそう思うが 37.5%となった。初めてのコロナ対応に教員自身も試行錯誤しながら模索していたと考えられる。また、教員は細やかに伝える必要性は感じているが、預かり保育で降園時間が不規則な場合、十分に伝えきれていない状況もある。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのコロナ対策で不安な保護者も多いので、距離間を考えながらも各教員が日々の保護者とのコミュニケーションを丁寧に行うことを意識する。また、教員同士で情報を共有し、より細やかな対応がとれるようにする。</li> <li>・写真、ビデオ、動画配信、ようちえんネットなどを活用し、視覚的にも園児の日々の姿を保護者がさらに知り、感じられるような機会を設ける。</li> <li>・園児を中心に考えることを最も大事にし、教員と保護者が共に園児の育ちを支えていくという意識が持てるように、教員から保護者に継続的に働きかけ、連携を深める。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	新型コロナウイルス感染症対策 【新型コロナウイルス感染症予防への取組】(重点)	自己評価	B
目標	新型コロナウイルス感染症の感染予防に努める。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月より動画配信(5月12日～29日まで計14回の配信。内容は教員紹介、礼拝、歌・手遊び、絵本・お話、遊びの紹介等)、月刊絵本、家庭で遊べる教材を各家庭に郵送した(全3回)。</li> <li>・6月1日2日進級式(人数を制限し、年中・年長2クラス)を3回行う。</li> <li>・6月3日、入園式(人数を制限し年少は1クラス、年中は3クラス合同)を行う。</li> <li>・6月4日よりクラス人数を半分(12～16人)にして、分散登園で保育を行う。</li> <li>・園児や保護者、教員など幼稚園に入館するものは、「発熱や風邪の症状がある方、または症状が無くなってから2日以内の方」「海外から帰国・入国し、2週間が経過していない方」「新型コロナウイルス感染症罹患者と濃厚接触した方」は入館を自粛していただいている。</li> <li>・基本的に保育室のドアや窓は全開にして、常に換気ができている状態で過ごせるようにしている。暖房が必要な時には、ガイドラインに則り、窓の開閉を行い、換気の基準を満たしながら健康に過ごせるように努めている。</li> <li>・登園時に「園児健康状態チェック表」(体温、咳、鼻水、嘔吐、下痢等の有無)の提出を徹底し、健康状態の把握に努めている。また、感冒様症状(熱、咳、鼻水等)で欠席の園児に関しては、症状消失後48時間経過してからの登園と、「感冒様症状に関する届」の提出をお願いした。尚、感冒様症状で欠席した園児は出席停止扱いとする。</li> <li>・登園時の保育室への入室時、活動毎(自由活動後、排泄後、外遊び後、食事前等)、咳・くしゃみなどの後にも、手指のアルコール消毒を行っている。</li> <li>・手洗いの際には泡状石鹸・ペーパータオルを用いる。また、個人で使用するマスク専用のケースを全園児分確保している。</li> <li>・園児の活動については出来るだけ園児が密集しないように環境を整える。また、使用する遊具・教材の消毒を出来る限りする。</li> <li>・話し合いでは椅子の間隔を開けて座り、大きな声で歌うことを控え、手遊びな</li> </ul>		

ど顔付近に手指がくるような遊びを避ける。また、栽培で採取した野菜や園庭の果実等は園児が摂取しないようにしている。

- ・ 1クラス以上が集まる活動は控えて保育をしている。ただし、年長のダッドレーチャペルでの礼拝は、室内換気量を勘案し、9月より3クラス合同で礼拝することができた。
- ・ 昼食の形態は園児が対面になることを避け、同方向で前後左右の間隔を開けて食事をしている(必要に応じて衝立を使用)。その為に机を26台購入。今年度はおやつ時間を設けていない。
- ・ 絵本貸し出し(週1回)の絵本返却時には、いったん絵本を預かり72時間経過してから絵本棚に戻している。
- ・ 降園時、例年であれば教員が室内で保護者に話をしていたが、デッキ(外の開けた空間)で保護者に話をしている。園児、保護者共に密集・密接を避けるため、時差降園を実施している。
- ・ 来園する保護者にはマスクの着用をしていただき、集まる際には手指の消毒や会話を控えるよう協力を仰いでいる。
- ・ 園庭開放は在園児は分散で実施し、朝の園庭開放を在園児の弟妹親子に対して実施している。
- ・ 保育室を常に換気し、保育後は園児の手が触れる場所(ドアノブ、レバー等)を消毒している。
- ・ 園児には手洗い消毒の大切さ、密を避けること等新型コロナウイルス感染症予防対策を話し合いなどで伝えている。
- ・ 保護者には「新型コロナウイルス感染症の対応について(第1～12報)」を配布した。
- ・ 入園式、進級式、誕生会、始園日、終了日、保育参観日、運動会、芋ほり、焼き芋、愛餐会、クリスマスなどの行事は、実施形態を変更した。保護者が座る椅子は使用前後に消毒をし、間隔は前後左右1.5m以上開けている。また、高齢者の参加は控えていただく。
- ・ 例年であれば1学期に行われていた散歩・遠足を延期とした(年少、年中は2学期に散歩をし、年長は甲山遠足を実施)。
- ・ 家庭訪問、夕涼み会、クラス懇談会、夏季キャンプ、プール遊び等は実施していない。
- ・ 保護者会活動については、クラス親睦会、保護者会講演会、サークル活動を行っていないが、役員会、少人数でのピアノ・オルガンコンサートなどは実施することができた。
- ・ 幼稚園説明会・新入園児保護者会は参加人数を制限する為に複数回に分けて実施した。
- ・ 個人懇談会や、入園面接など、保護者と面談する際には、飛沫防止のための衝立を使用している。

#### (取組の効果に対する評価)

- ・ 保護者アンケートからは、問13「幼稚園は、新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら、保育を行っている。」に関して、回答された保護者の99.5%が、強くそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。また、教員アンケートからも、問12「幼稚園は、園児、保護者、教員の新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めている。」に関して、回答した全ての教員が、強くそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている。これは、保護者、幼稚園の双方が新型コロナウイルス感染症の予防に対して高い意識を持っている事の表れではないかと思われる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの問14「休園中の幼稚園の対応として、YouTubeでの配信、絵本、製作物等の配布には満足している。」に関して、強くそう思う、どちらかといえばそう思うと答えている保護者が91.4%であるが、あまりそう思わない、まったくそう思わないと答えている保護者が8.5%となった。肯定的な回答が多いが、否定的な回答にも着目したい。配信動画の中で、各学年、製作物の親子での楽しみ方や、歌、絵本など、工夫を凝らしたものの、長期間家庭で子育てをされた保護者にとって、また、園児にとって、満足のいく内容ではなかったと省察する。教諭は、オンライン上で保育を行うことが難しい中で様々なできることを試みたものの、この結果からは、休園中の幼稚園側の努力が保護者には十分伝わっていないと思われる。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じて、最善の対策がとれるようにしていく。園児、保護者、教員の健康状態を把握し、幼稚園でのクラスター発生を防ぐように努める。また、手指消毒・手洗いの励行、室内の換気、くしゃみの際のマナー指導などの対策に取り組む。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症により様々な活動が制限される中でも、園児一人ひとりが幼稚園で主体的に遊び、集団生活の中で喜びを味わうことができる保育を実践していく。</li> <li>・休園となった際、動画配信、製作教材の郵送のみならず、文部科学省の「子供の学び応援サイト」に掲載されている「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集」も参考に、本園の教育、保育に応じた家庭で過ごす園児の教育支援や保護者支援等を模索し続ける。</li> </ul>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

## 総合評価

今年度は新項目として、新型コロナウイルス感染症対策を加えた6項目を選定することとなった。緊急事態宣言による休園が続き、保育計画の見直しや行事の変更が必要となった。そのような状況でも、園児にとって何が大切かを考え合い、保育プログラムを計画し、実行できたところは評価できる。新たに生じた反省点を整理・共有し、次年度に生かしていく。

アンケートからは、保護者・教員共に、全ての評価項目において肯定的な回答を得た。しかし、6つの項目のうち、「キリスト教主義教育」、「教育環境整備」、「保護者との連携」、「新型コロナウイルス感染症対策」の4項目に関してはそれぞれに継続的努力が必要である。

今後、幼稚園が大切にしている、園児「一人ひとり」が愛情を感じられる教育、園児・教員と共に認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうプロセスを大切にする「共に」の視点の教育を引き続き行うと共に、各項目の改善点を教諭全員で共有し、日々の保育に生かしていく。

## 2020年度の評価をふまえて2021年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・指導
- ・教育環境整備
- ・保護者との連携(重点)
- ・新型コロナウイルス感染症対策

関西学院幼稚園は、“Mastery for Service”というスクールモットーの体現、またキリスト教主義の保育の実践という観点から、目に見えない心の教育を実践されようと日々教員が、努力されています。整備され自然の豊かさを感じられる園庭、整理整頓された中に子どもへのメッセージが伝わる保育室には、環境としての質の高さを感じます。さらに、子ども一人ひとりの個性を受けとめながら導く教員の関わり方からは、教員の意識・質の高さを感じています。

今年度はこれまで経験がないコロナ感染症対策という環境下での保育の進め方について、教員たちで十分に話し合いの時間がもたれたことが想像でき、また感染症対策が実行されていました。さらに参観の日には、子どもたちが自分のやりたい遊びに夢中になる姿、子ども同士で情動を共有する様子を拝見し、教員が子どもの発達に応じた細やかな対応をされていることを実感しました。

#### 【キリスト教主義教育】

- ・幼稚園では毎朝、教員が祈祷会を開き、祈りから一日を始めるという慣習は大事なことと考えます。共に祈る中でキリスト教主義の保育についての理解が深まると同時に、一人ひとりの子どもに沿った愛情をかける保育へのスタートといえるでしょう。また、土曜日のダッドレーチャペルでの礼拝は、保護者にキリスト教主義の保育を理解して頂くうえにおいて有意義だと思います。
- ・アンケート問1「キリスト教保育の理念を共有している」の教員回答では、ほぼ全員が肯定的に捉えています。保護者の回答からは様々な評価が見られることから、「今後の方策」に書かれたことを実践されることを期待します。

#### 【教育課程・指導】

- ・前年度B判定でした「各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助」について、今年度はA判定にアップしたことは、大変評価できることと思います。それは、今回の参観でも感じたことですが、学年ごとにテーマと内容を擦り合わせ共有されながら教員の思い思いの環境を設定されていること、また、教員同士で保育を見合うという機会を設けられたことは、保育の質担保という観点からも良い方向性であると考えます。
- ・教員は自由活動の時間においても子ども一人ひとりの興味・関心を高め、自主的・意欲的に活動ができることを目指して子どもの思いを教員が受容し、教員が指示しないことが求められます。そこで、お互いの保育から学び合いの機会をもち、その後の忌憚のない話し合いが重要だと考えます。
- ・特殊な環境であった今年度は、休園や行事の在り方にも変化を余儀なくされましたが、保育を丁寧に見直すという観点、また新型コロナ対策というテーマに沿って教員が一丸となって取組まれたという姿勢は、今後の連帯力を育むうえで貴重な体験だと考えます。

#### 【保健管理】

- ・保育室は十分に換気を意識された環境であり、教員はマスク着用という感染予防対策を着実に実行していました。園児もすすんで手洗いをすることが習慣化しており、保護者の意見からも肯定的な回答が見られたことは、大いに評価できます。
- ・記述の中に「保育中に園児が体調を悪くする場面が大きく減少した」という項目があり、日常の健康管理、疾病予防の取組は、ほぼ満足できると考えられますので、継続されることを期待します。

#### 【教育環境整備】

- ・自己評価が前年度Aであったのに対して、今年度はBという評価でありました。教員は遊具の設備点検、園庭の整備をSDGsの観点を意識して努力されていました。また休園中には、多くの絵本を購入し家庭で遊ぶ制作物と共に各家庭に配布されていました。しかしながら、保護者のアンケート回答に否定的な意見もみられることは、忙しい送迎の中では見えにくく理解されないこともあったのではないかと考えられます。
- ・教員の教育・研修会への参加の機会が少なかったことがアンケート回答にみられました。教員はお忙しいと思いますが、Z o o mで開催される様々な研修会に参加されることを望みます。近年の学会大会がリモートになり行く必要が無いことから、ある意味で参加しやすい時期だと考えま

す。

#### 【保護者との連携】

- ・今年度はやむなく家庭訪問およびクラス懇談会が中止となり、教員が保護者と話す機会が減少したことで、保護者との連携をとることが難しかったことが理解できました。そこで、教員が園生活の様子や伝達事項、催しなどをホームページやようちえんネット、YouTube で配信される等の努力をされていた点は、大いに評価します。また、このような発信方法が今後にも活かせることを期待します。
- ・預かり保育が増加という現象から、子どもの様子を十分に保護者に伝えきれなかったという点については改良の余地があるかもしれません。

#### 【新型コロナウイルス感染症対策】

- ・入園当初早々のコロナ対策で子どもたちや保護者の思いが複雑に、またマイナーな思考になりやすい中、幼稚園の対応も試行錯誤で大変だったと思います。その中でも、共通的な取組みについて様々な場合を想定し、多岐にわたり具体的な内容を取り決められたことは、高く評価できます。
- ・保護者アンケート問 14 に対して休園中の園の対応に対して否定的に回答された背景として、園の再開を待ち望まれていた保護者がおられるのではないかと推測します。
- ・休園 2 ヶ月を強いられる事態の中で、保健管理という点から感染症対策を模索されたことが読み取れました。

#### 【総括】

- ・保護者アンケートからほぼ肯定的な回答が得られたことは、教員の努力の賜物であるといえるでしょう。
- ・改善点については教員間で共有され、総合評価に記載されていた具体的な項目を来年度に実行されることを期待しています。

幼児教育の実践においては、COVID-19 の感染防止のために必要な人間同士の「密」を避けることができにくいため、教職員の方々の日常は緊張の連続であると思います。このような状況下で、教育全般にわたり、できるだけ保育の質を維持、発展させようと努力している点は大変評価できます。

#### 【キリスト教主義教育】

目標の 1 つである教員間でキリスト教保育理念を共有するという点に関し、教員へのアンケート結果に昨年とは違いが見受けられ、取組の効果に対する評価にも反省が記されていますが、幼稚園の特色に関係する重要な課題ですので、今後の具体的な方策を検討することが求められます。

#### 【教育課程・指導】

昨年と同じテーマ、同じ目標のもとに評価が B から A に変化したのは、教員間の教育方針の共通理解を深める努力をした効果であると記述されています。その根拠として教員アンケートの問 2 「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている」と言う項目の「強くそう思う」という回答のパーセンテージが大きくアップしたことを挙げており、この点は評価できます。一方、個の尊重だけが強調されていることが少し気になりました。家庭とは異なり集団教育（保育）の場である幼稚園教育は、個と集団の両方の視点から教育課程や指導を検討することが大切だと思いますので、園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する視点として仲間との関係も視野に入れ、集団としてどう育つかという観点からも教育課程や指導を評価することが望まれます。

#### 【保健管理】

丁寧で細やかな対応がなされており、アンケート結果から、このことを保護者も十分理解していることがわかり、大変評価できます。

#### 【教育環境整備】

園庭の自然環境を幼児に適した教育環境として維持・管理するためには教職員の努力が必要ですが、その努力が十分なされていることがよくわかり、評価できます。また、設備の安全確認や点検、災害時に備えた訓練など、必要なことが実施されています。しかし保護者対象のアンケート結果か

ら、問9「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検・整備を適切に行っている」という項目に関し、昨年度は「強くそう思う(68.2%)」「どちらかと言えばそう思う(31.3%)」という回答のパーセンテージを合わせて、保護者は肯定的に捉えているという評価であるのに対し、今年度は「強くそう思う(60.0%)」という答えのパーセンテージのみを示して、この回答率は、園舎・園庭の経年劣化に対応するために時間を要することが一因であると記されています。評価の基準(アンケートのどの回答のパーセンテージで評価したのか)が同じでなければ昨年度の記述との整合性や連動性が評価できにくいので、今後、この点を注意することが望まれます。

教員の教育、研究のための環境の充実に関して、取組の効果に対する評価の箇所に課題が記されていますが、挙げられているアンケート項目が研修、研究の機会に関することに限られ、前年度の教育、研究の成果あるいは評価が示されていないので、今後の方策が立てにくいのではないかと思います。教員の研修や研究のための環境を充実させるためには、研修や研究の内容あるいは成果の評価が関連しているので、その点も含めて今後の方策を検討し、評価をしていくことが重要だと思われる。

#### 【保護者との連携】

教員が保護者とのコミュニケーションに関し課題があることを把握しており、その課題解決に向けて意識的に努力しようとしていることは評価できます。保護者とのコミュニケーションが十分できない要因として、預かり保育で降園時間が不規則なことが昨年度に引き続き挙げられています。今後、預かり保育の需要が増える可能性があるため、具体的な対策を検討することが必要と思われる。

また、評価表には記載されていませんが、雨の日の車での送り迎えに関し、大学キャンパス内の駐車場を利用する上でのルール徹底が事故防止、安全のために必要だと思われるので、保護者の理解と協力を求める必要があります。

#### 【新型コロナウイルス感染症対策】

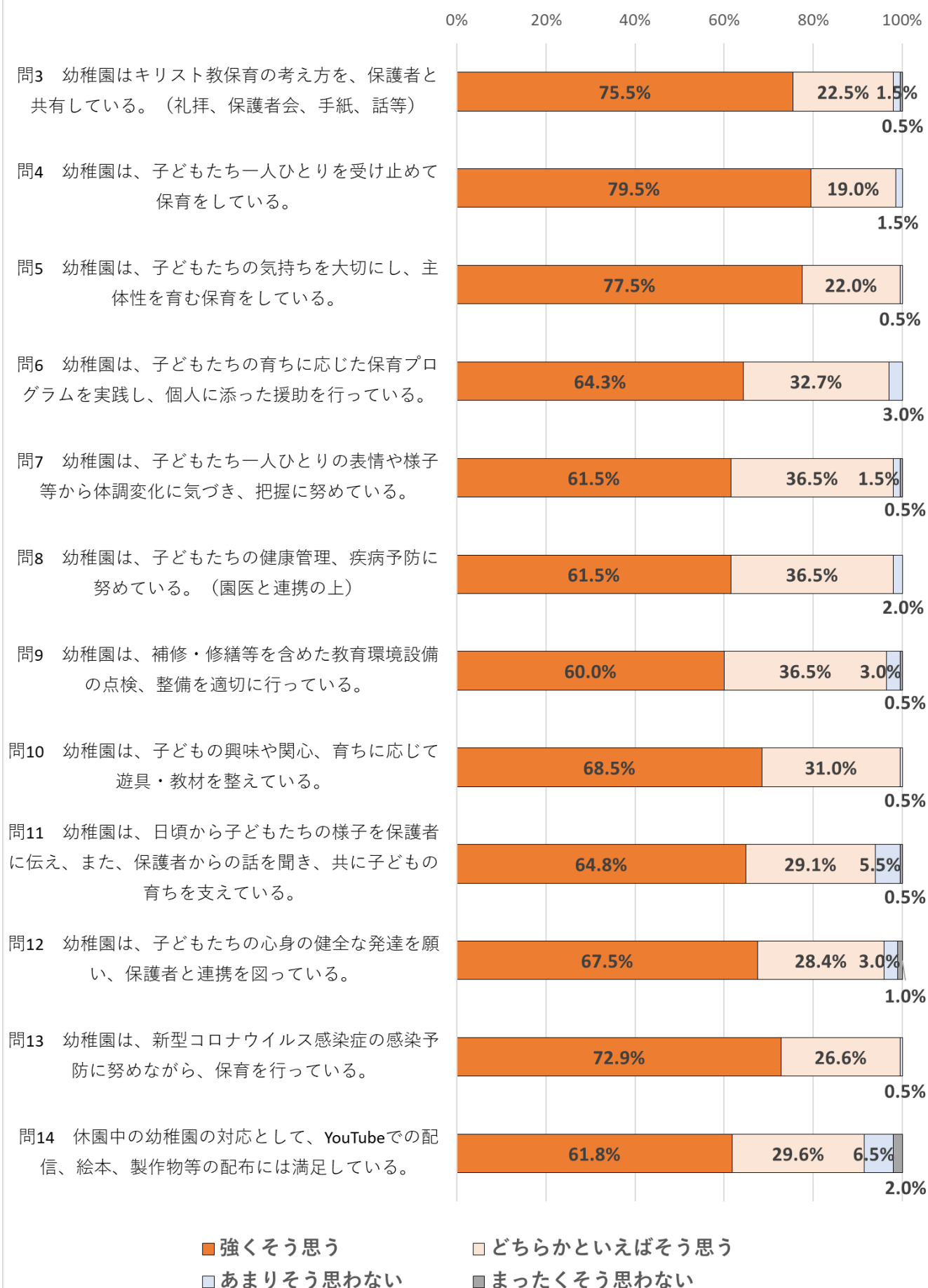
最善を尽くして対応していることがわかり、教職員の努力を評価できます。

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症への対応が必要となり、保育内容や保育形態などさまざまに工夫を図りながら保育が展開されました。関西学院幼稚園では、どのような時にも教員同士の対話を大切にし、全教員が連携して保育に向き合っていることが具体的な取組の内容から理解できます。
- ・「教育課程・指導」の評価項目は昨年度の「B」評価から今年度は「A」評価となりました。このことは、「園児一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育」が今年度も揺るぎなく実践されたことを裏付けています。教員アンケートの問2「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている」では「強くそう思う」の回答が87.5%となり、2018年度47.8%、2019年度64.3%から大きく評価が高まりました。コロナ禍で保育活動が制限される中、園児一人ひとりへのきめ細やかな対応が日々の保育に具現化されたことが示されているといえます。保護者アンケートの問4「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている」、問5「幼稚園は、子どもたちの気持ちを大切にし、主体性を育む保育をしている」の満足度が高いことも評価できます。
- ・「教育環境整備」は昨年度の「A」評価から今年度は「B」評価になりました。教員アンケートの問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境(中略)づくりに努めている」への評価が低い結果となったことが一つの要因となっていますが、コロナ禍で教育・研究の機会が制限される中、保育の質の向上や保育の充実・改善へ向けての教員の高い意識がみてとれます。コロナ禍の影響は次年度も続きそうですが、今後の方策として「教員の教育、研究のための環境の充実」が示されましたので、更なる取組に期待します。
- ・幼稚園の環境については、SDGsの観点から園庭の環境整備を行っていることや季節の移り変わりの中で保育を展開していること、教員の安全面の配慮など充実した取組がなされています。恵まれた環境を積極的に保育に取り入れていることは大変評価できます。

- ・「保護者との連携」は昨年度に引き続き、「B」評価となりました。新型コロナウイルス感染症対策により、例年より保護者とのコミュニケーションの機会が減少する中、特に登降園時の保護者との対話を心がけたことが示されました。保護者ととも保育をつくる関西学院幼稚園の伝統を今後も継続し、保護者との連携が深まることを期待します。
- ・「新型コロナウイルス感染症対策」は重点項目として新たに加えられ、詳細に自己点検・評価が行われました。次年度も引き続きコロナ禍への対応が求められますが、園児、保護者の健康が守られるとともに、日々緊張感をもって保育にあたる教員の心身のケアについても取組の充実が望まれます。

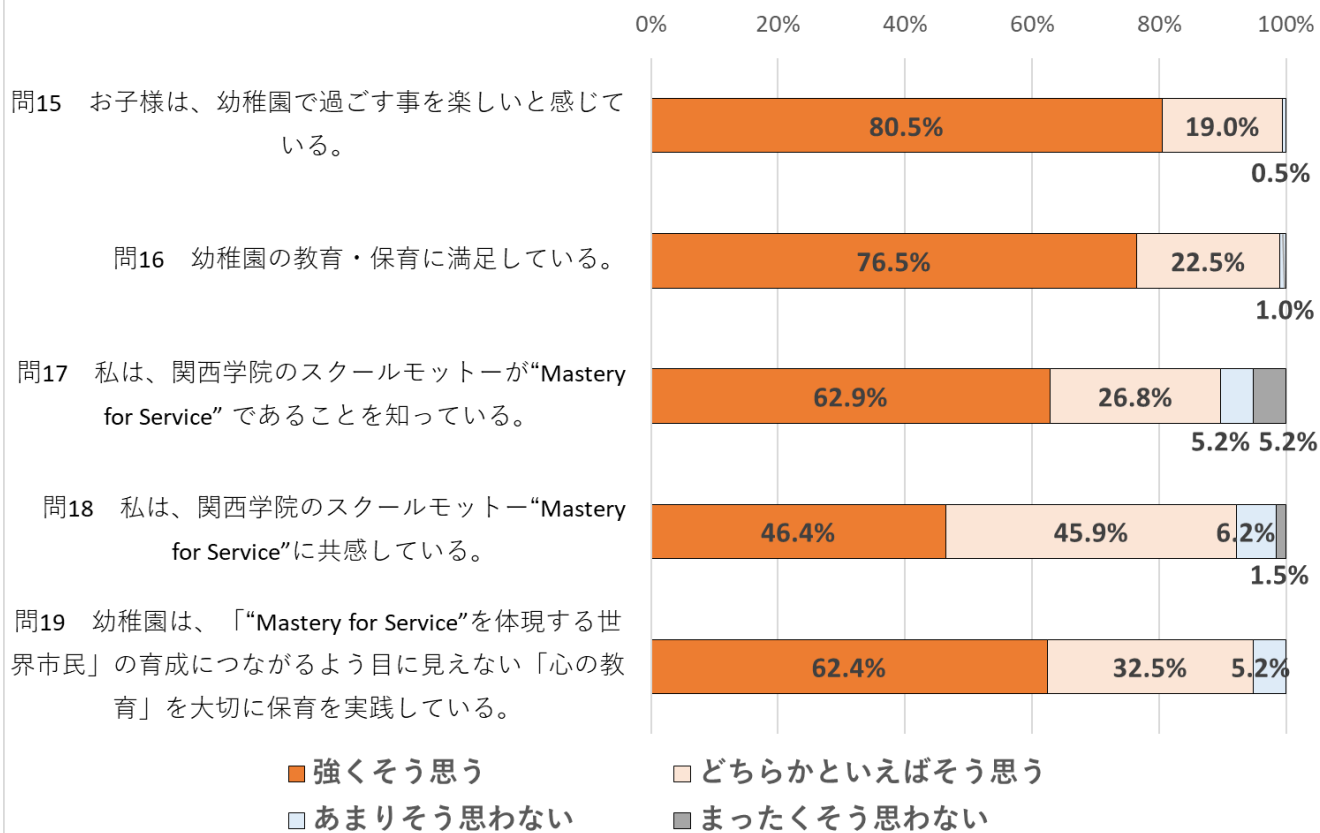
2020年度学校評価

2020年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者 (回収率 92.6% 200人/216人中)

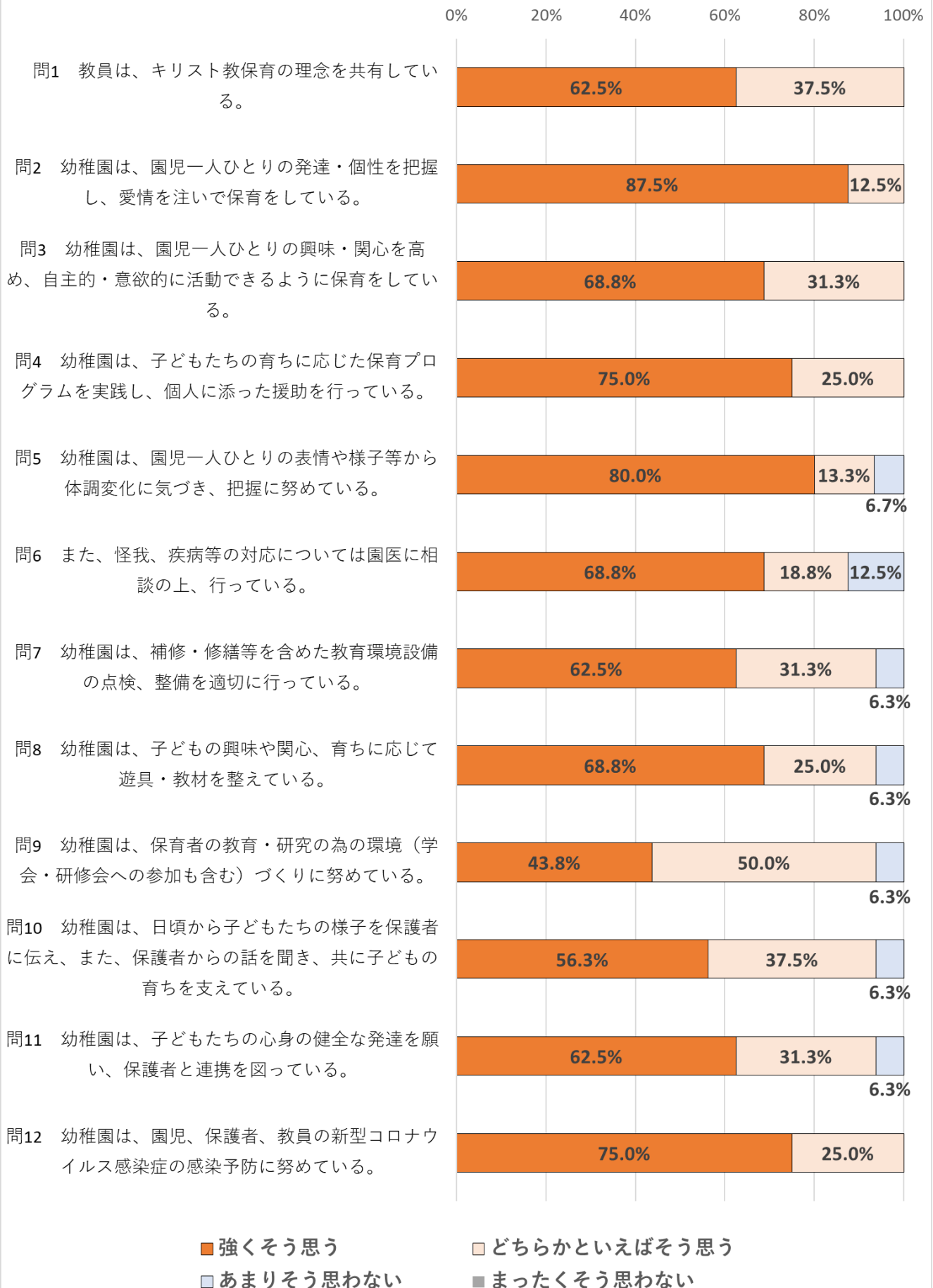




**2020年度 学校評価アンケート集計結果**  
**幼稚園・保護者** （回収率 92.6% 200人/216人中）



2020年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員 (回収率 100% 16人/16人中)



**2020年度 学校評価アンケート集計結果**  
**幼稚園・教員 (回収率 100% 16人/16人中)**

